

令和4年度国保事業費納付金仮算定結果（主な増要因）

1. 1人当たり納付金及び標準保険料率等

	R4 仮算定	R3 本算定	差額	対前年比
1人当たり納付金額（円）	181,978	164,744	17,234	10.5%
1人当たり保険料額（円）	164,820	151,656	13,164	8.7%
標準保険料率【所得割】	12.76%	11.89%		7.3%
標準保険料率【均等割】	78,461	73,160	5,301	7.2%

2. 国保事業費納付金及び激変緩和等

	R4 仮算定	R3 本算定	差額	対前年比
納付金額【激変緩和前】（千円）	4,658,040	4,436,019	222,021	5.0%
激変緩和（千円）	▲76,288	▲125,193	▲48,905	▲39.1%
都財政支援（千円）	▲3,923	0	▲3,923	—
納付金額【激変緩和後】（千円）	4,577,829	4,310,826	267,003	6.2%
保険料必要額（千円）	4,211,028	3,971,586	239,442	6.0%

3. 納付金額増加の主な要因

①保険給付費の増

1人当たり医療費 令和4年度推計 353,787円（令和元年度実績326,037円 8.5%増）
※推計にあたり、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の実績はもちいることはせず、令和元年度の数値に置き換え補正した。

②介護納付金の増

1人当たり介護負担金 83,985円 4.7%増（令和3年度確定納付金算定時 80,133円）

③激変緩和措置額の減

激変緩和措置額 76,288千円 ▲48,905円（令和3年度 125,193千円）

④令和2年度決算剰余金の活用方法

決算剰余金については、これまで翌々年度の国保事業費納付金の減算に活用されていたが、令和2年度決算剰余金については令和3年度予算に充当されることとなった。

令和3年度 約79億円 → 納付金から減算

令和4年度 約144億円 → 令和3年度予算へ充当